

## 全国安全週間を迎えて

# 労働安全衛生マネジメントシステムの 早期導入・定着を

名古屋北労働基準監督署長 原 田 次 夫



本年度83回目を迎える全国安全週間が、今年も7月1日から7月7日まで「みんなで進めようリスクアセスメント めざそう職場の安全・安心」をスローガンに全国的に展開されます。

平成21年の名古屋北労働基準監督署管内における労働災害発生状況は、休業災害894件、死亡災害9件と総件数では過去最少を記録しました。20年前の平成元年には休業災害1,695件、死亡災害19件でした。この20年で概ね半減したことになります。20年という期間の長短はともかく、半減したことは、関係各位の努力の成果であり、大いに評価されるべきことと思います。21年における大幅な減

少は不況により作業時間が減少したためだという意見もありますが、それだけでなく、関係各位の努力の結果と信じます。本年度のスローガンにも表現されているように、リスクアセスメントを中核とする労働安全衛生マネジメントシステムの導入を災害防止対策の重点としております。

「リスクマネジメントとは、リスクを把握・特定することから始まり、把握・特定したリスクを発生頻度（発生確率）と影響度（酷さ）の観点から評価した後、発生頻度と影響度の積を評価の尺度とした、リスクの種類に応じた対策を講じる、また、仮にリスクが実際に発生した際には、リスクによる被害を最小限に抑えるという一連のプロセスをいう。——中略——これらのプロセスはP D C Aサイクルを取る「これはWikipediaに掲載されている「リスクマネジメント」の定義です。労働

安全衛生マネジメントシステムについてもそのまま当てはまるものだと思います。早期の導入・定着が望まれます。

災害防止活動のコストパフォーマンスについて、投入した資源と発生件数の関係は反比例の曲線を描く、という説があります。つまり何もしなかったときを基点とすると最初の頃は投入した資源に応じて大きな成果が得られるが、コストパフォーマンスは逓減し、頂点を過ぎた後ついには限界点に近づき、多大な資源を投入しても減少しなくなる、というものです。現

在が曲線上のどの位置にあるか判りませんが、少なくとも限界点は遙か彼方であると思います。また、コストパフォーマンスが低いからといって停止することのできない活動です。

いくらか景気回復の兆しが見え、労働時間も増加の傾向にあるといわれていますが、コスト削減の要請は一層強くなっているものと思われま

景気が回復し、労働時間が増加したとしても、災害は元に戻ることもなく減少を続けることを期待いたします。

